環境 eco magazine

購読したい方は
メールまたは電話で
お申し込みください
（購読無料）

No.327

地球にやさしい身近な取り組みを提案する【エコマガジン】

●インタビュー
参議院議員
元環境庁長官　清水嘉与子氏

●エコマガジンクラブ
- **4月より岡山県自然保護センターを管理運営**
- **2月16日に京都議定書発効記念セミナーを開催**

特集 **今こそ最大のチャンス**

●じわじわと地球をむしばむ温暖化
●岡山県で起こっている深刻な影響
●京都議定書の達成を目指せ！省エネ推進in岡山
●「わたし」から始まる省エネ
●冬の暮らしから見直そう

財団法人岡山県環境保全事業団

特集●今こそ最大のチャンス　――プロローグ――

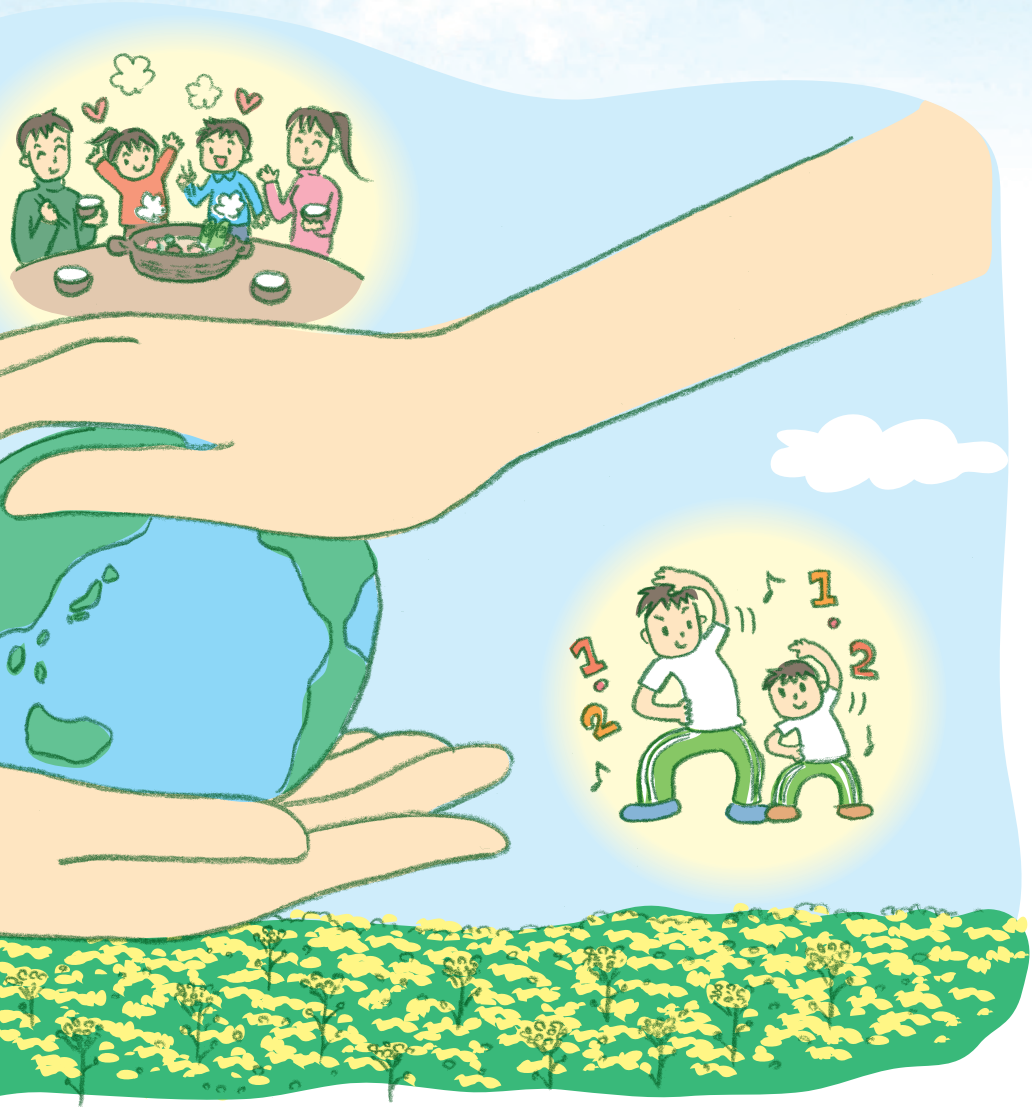
今なら間に合う、今すぐに！

ちょっと待って　その暖房！

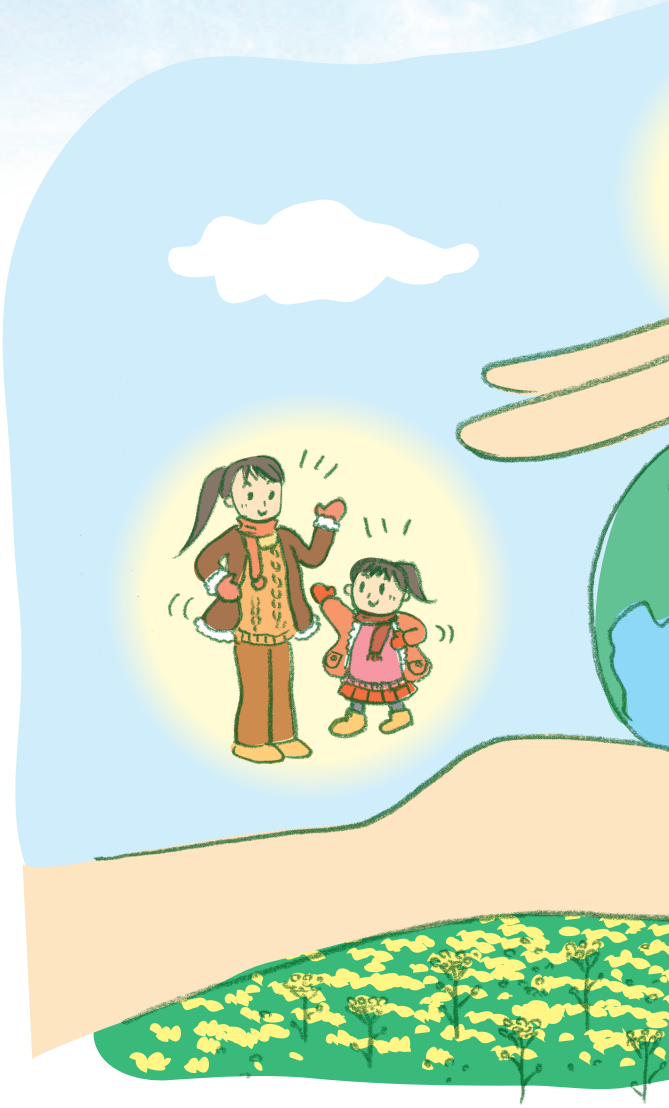
暮らしの中で工夫して
〝おいしい〟〝たのしい〟〝きもちいい〟
エコな生活はじめましょう

家族で囲む旬な鍋
暖色重ね着あったかスタイル
カラダを動かしリラックス

スイッチひとつで温度は上げられるけど
工夫次第で　暖房いらず！



何よりもその工夫
地球の役に立っています
今なら間に合う　今しかない
地球のために今日からすぐに
エコな暮らしをはじめましょう



CONTENTS

環境 eco magazine

No.327　2007.2

●特集
・今なら間に合う、今すぐに！……1
・今こそ最大のチャンス……3
●インタビュー
参議院議員
元環境庁長官　清水嘉与子氏……7
●見たい! 知りたい!
地球温暖化防止活動推進員の活動レポート……7
●エコスクール紹介　「岡山市立伊島小学校」……9
●レッドデータチェック……9
●イベントレポート……10
●エコボイス　読者の声……10
●編集後記……10
●エコマガジンクラブ……11
●日本の文化を大切にし人の役に立つ
本当の心の豊かさへ……11

●巻頭特集

今こそ最大のチャンス

地球規模で起こっている温暖化。世界中で起こっている異常気象。
私たちが直面している最大の危機を最大のチャンスに！
私たちにはできる！

温暖化による
海氷の減少で
個体数が減っている
ホッキョクグマ

〝今こそ最大のチャンス〟これは、アメリカ元副大統領のアル・ゴア氏が地球温暖化について警告する映画「不都合な真実」の公開に先がけて来日したときの言葉です。「温暖化は人類最大の危機である」と訴えたうえで「日本語の『危機』という言葉の『機』は機会・チャンスという意味がある」と続け、温暖化を回避するチャンスが私たちにはまだあると説明しました。私たち一人ひとりが声をあげ、関心が環境問題や企業活動に向けられれば、企業・消費者ともに良い方向へと変わってゆくということです。

またゴア氏は、２１００年には1.4～5.8度上昇するという予測についても「もし子供が熱を出したら、我々は当然医師にかかり、その指示通りにするでしょう」とわかりやすく説明し、今熱を出している地球に対し警報を鳴らす科学者の意見に耳を傾けるべきだと訴えました。

２００８年には京都議定書で定められた６％の削減取組期間が始まります。私たちは気温が５度上がると聞くと、ちょっと暖かくなる程度と感じがちですが、これがもし体温だと36.5度から41.5度になったのと同じこと。私たちは地球温暖化について真剣に考え、一刻も早く行動に移さなければなりません。

じわじわと地球をむしばむ温暖化

2006年におきた世界の主な気象災害

ヨーロッパの寒波（05年12月～1月）	度々低温に見舞われ、1000人以上の死亡が報じられた
フィリピンの地滑りや台風（2月、5月、9～11月）	２月の大雨による大規模な地滑りで1000人以上の死者、５月以降の相次ぐ台風により600人以上の死亡が報じられた
中国の台風（4～8月）	台風が中国南東部に相次いで上陸し、1400人以上の死亡が報じられた
ヨーロッパの熱波（6～7月）	熱波が発生し、1900人以上の死亡が報じられた
日本～朝鮮半島の大雨（7月）	梅雨前線の大雨による死者・行方不明者は日本で30人、韓国で60人以上と報じられた
アメリカの熱波（7～8月）	熱波に見舞われ、180人以上の死亡が報じられた
アフリカ東部の大雨（8月～11月）	大雨や洪水が繰り返し発生し1000人以上の死亡が報じられた
オーストラリアの干ばつ（年後半）	５年以上続く干ばつに加え、８月以降の降水量が史上最少となり、小麦の収穫量は2005年の４割弱と伝えられた

昨年12月、過去最高の気温

気象庁によると、昨年12月の世界の月平均気温の平年差は＋0.41℃と、統計を開始した1891年以降で最も高い値になりました。二酸化炭素などの増加に伴う地球温暖化の影響が主な原因と考えられています。

異常気象の頻発

気象庁では、30年に1回程度発生する気象を「異常気象」としていますが、地球温暖化が進むことにより気温の上昇だけでなく、異常気象の頻発、気候変動の幅の拡大などが予想されています。

2006年におきた日本の主な気象災害

平成18年豪雪（05年12月～1月）	日本海側で記録的な大雪となった雪下ろし中の事故等甚大な人的被害や交通機関等への大きな影響があった
日照時間の減少	春から梅雨時期にかけて全国的に日照時間が少ない状態が続いた
平成18年7月豪雨（7月）	本州から九州にかけての広い範囲で豪雨となり、甚大な被害が発生した
竜巻による大災害（9～11月）	宮崎県延岡市や北海道佐呂間町などでは竜巻による大きな災害が発生した

岡山県で起こっている深刻な影響

岡山が九州に？

1997年から2005年の平均気温は16.6℃となっており
現在の岡山は50年前の鹿児島とほぼ同じ気温といわれています。

夏の期間が長くなっている？

サクラの開花は50年間で3.3日早く、イチョウの黄葉は50年間で20.3日遅くなっており夏が1ヶ月近く長くなっています。

暖冬！今年の冬は？

岡山気象台によると、県内の昨年12月から今年1月10日までの平均気温は、各地で平年をおよそ0.5～1℃上回り、岡山市では3月下旬並みの暖かさとなりました。

●深山公園（岡山市）ではロウバイが例年より2～3週間早い1月上旬に開花
●半田山植物園（岡山市）ではシダレウメが昨年より1ヵ月早い1月22日に開花

雪の重さに耐えきれず、軒が崩れ落ちた民家（新見市　2005年12月）山陽新聞社提供

1月20日の「氷紋まつり」では約1000トンもの雪を運び入れ実施したが、22日より一時休業となった恩原高原スキー場（2007年1月）山陽新聞社提供

近年大きくなる　気候変動の幅

岡山県北部では、昨年記録的な大雪に見舞われましたが、
今年は暖冬による雪不足でスキー場の閉鎖が相次ぎました。

京都議定書の達成を目指せ！省エネ推進in岡山

進む温暖化　対策が急務

地球温暖化対策を推進する岡山県指針「省エネルギービジョン」の骨子案が昨年12月に示されました。今年2月の最終会合で、正式なビジョンになります。

骨子案では現状のままだと岡山県の2015年度のエネルギー消費は1990年度比で15.1％増加すると推計しています。目標達成にむけ、増加に歯止めをかけなければなりません。

困ったときは、温暖化防止センター

岡山県環境保全事業団では、「地球温暖化防止活動推進センター」として、環境イベントやセミナーなどを通して啓発・広報活動、図書やビデオ、啓発グッズの貸し出しなどを行っています。

また、地域や職場、学校で開かれる温暖化に関する学習会へセンター職員や推進員※を講師として派遣しています。お気軽にお問い合わせ下さい。

※地球温暖化防止活動推進員とは、温暖化の現状や対策の普及活動を積極的に行っている方々で県内に103名います。

2015年に向けた省エネルギー目標（2004年度比）

※「省エネルギービジョン」骨子案

産業部門　削減目標率16％

●温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の創設

●省エネパトロール隊による企業の省エネ診断・省エネ改修の促進

家庭部門　削減目標率18％

●「アースキーパーメンバーシップ制度」の充実・会員拡大
【普及目標】5042、（2005年度末）→12,000県民・事業者

●地球温暖化防止活動推進センター・推進員と協働・連携した普及啓発活動

●統一省エネラベルの認知度アップによる省エネ家電の普及

運輸部門　削減目標率24％

●「おかやまエコドライブ宣言」の募集
【普及目標】103→25,000県民・事業者

●エコドライブ教室・講習の開催

●低公害車の導入促進
【普及量目標】
保有台数（普通車）201,419台（25％）→500,000台（62％）

●公共交通機関の利用促進

「わたし」から始まる省エネ

私だけがやったって…、そんな風に思っていませんか？多くの力が集まれば大きな成果につながります。

岡山県では、環境にやさしい行動の実践を宣言する「アースキーパー会員」を募集しています。現在、ご家族をはじめ約6000会員もの方に加入していただいており、人数に直すと12000人以上が参加している大きな取り組みです。会員登録は無料。また、会員になると温暖化バスツアーや節電キャンペーンに無料で参加できるなどの特典も！家族や職場など仲間を誘ってみんなで楽しみながら地球にやさしい生活に取り組んで行きましょう。

また、環境省は昨年10月、6％の温室効果ガス削減に向けた国民的プロジェクト「チームマイナス6％」運動の一環として、この冬の取り組み「うちエコ」を発表しました。オフィスで暖かく快適に過ごすビジネススタイルウォームビズの実践によって暖房時の室温を20℃にする運動を〝家（うち）〟の中にまで広げようというものです。重ね着を楽しんで暖房を控えめにするだけでなく、衣食住を通じて温暖化対策を家の中からはじめましょう。

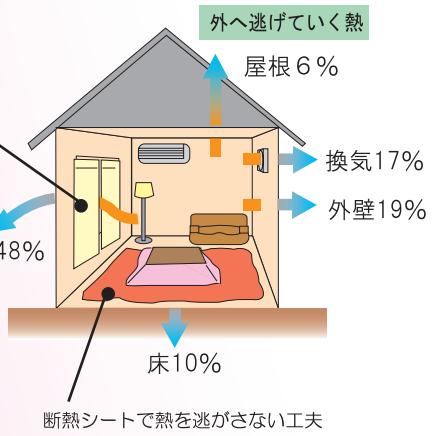
冬の暮らしから見直そう

出典：経済産業省資源エネルギー庁、環境省資料
※日常生活において４人家族が1年間に消費するエネルギー割合

地球温暖化が深刻化しています。
エネルギーを効率的に使って、
かしこく省エネを！

暮らしを省エネ型へ

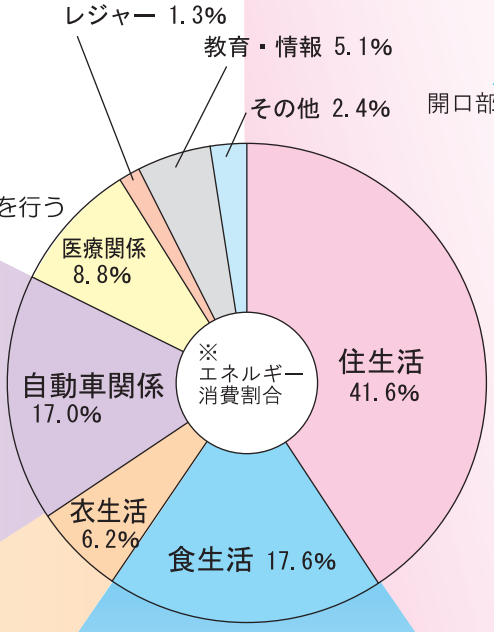
カーテンを２重にする、
太陽光の入射を調節する
など上手に利用



車の使用と燃費を考えて

¥ 週2日往復8kmの車の運転をひかえる
年間約8,000円の節約

¥ 1日5分間のアイドリングストップを行う
年間約2,000円の節約



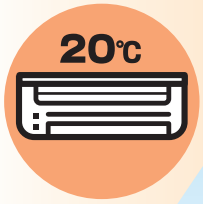
¥ 家族が同じ部屋で団らんし暖房と照明の利用を2割減らす
年間約11,000円の節約

¥ 待機電力を90%削減する
年間約6,000円の節約

¥ テレビ番組を選び、1日1時間テレビ利用を減らす
年間約1,000円の節約

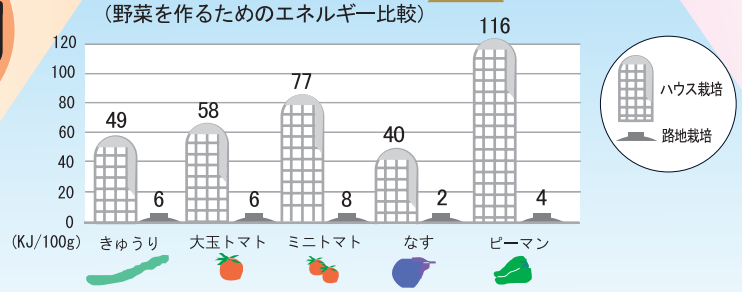
室温は20℃必要なときだけ暖房

¥ ウォームビズで暖房を20℃に設定
年間約1,170円の節約



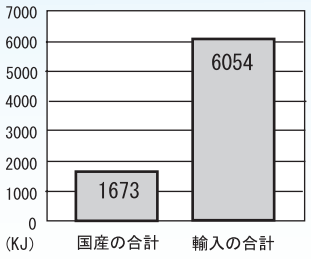
旬と産地を要チェック

旬を知って旬を楽しむ
（野菜を作るためのエネルギー比較）



¥ 冷蔵庫にものを詰め込みすぎない
年間約960円の節約

¥ 冷蔵庫の設定温度を「強」から「中」へ
年間約1,360円の節約



産地による輸送エネルギーの比較
（てんぷらそば必要素材で比較）

インタビュー

参議院議員 元環境庁長官 清水嘉与子氏

●プロフィール
2000年には環境庁長官として、日本で開催されたＧ８環境大臣会合の議長を務め、公式声明をまとめるとともに、「循環型社会形成基本法」を制定し、資源循環型社会への道しるべとした。
現在は自民党 環境調査会・地球環境委員長として、京都議定書の確実な実行に向けて精力的に取り組んでいる。

地球をまもる、生命をまもる

現在、環境問題が非常に深刻になっていますが、環境問題がなぜ起こってしまったのか、ということは既にみなさんもおわかりでしょう。環境問題は一人ひとりが被害者でもあり、加害者でもあります。ところが、豊かで快適な生活を送るということが地球を痛めているという意識を持つことはなかなかないですよね。

日々の生活の中で何気なく使っている水や電気は、限りある大切な地球の資源です。「地球をまもる、生命をまもる」は私のモットーでもありますが、地球上の生命とそれをはぐくむ地球環境を次の世代に引き継ぐには、どんな小さなことでも活動を続けることに大きな意義があります。なるべくごみを出さないように、エネルギーを使わないように工夫していただくだけで、一人ひとりの小さな心がけは大きな力になります。

温暖化の鍵を握る京都議定書

わが国は京都議定書で二酸化炭素（CO_2）をはじめとする温室効果ガスを90年度比で6％削減すると約束しています。ところが、温室効果ガスの排出量は依然増加傾向にあり、削減どころか8％も増えているため、合計14％の削減が求められています。

その目標を達成するため、環境省をはじめとする各省が様々な政策をつくり、2008～12年の第1約束期間に目標を達成できるよう年次的な計画を作成したものが、2005年に策定された『京都議定書目標達成計画』です。

地球環境政策にはこれまでも多くの予算が使われてきましたが、CO_2削減効果がはっきりしていませんでした。そこで『京都議定書目標達成計画』では省エネ技術の推進や、自然エネルギーの導入、森林の適正な管理・保全による吸収源対策など、政策ごとにどれだけ削減できるか効果を把握できるようにしました。

京都議定書の目標が達成できるよう、私たちも計画の進捗状況を厳しくチェックし、温暖化対策を推進して行きたいと考えています。

京都議定書の約束は守れるのか

日本の削減目標であるマイナス6％を達成するためには今までの温暖化に関する取り組みの2倍のスピードで取り組むことが必要であるといわれています。

京都議定書では、目標を遵守できなかった場合、未達成分の1.3倍を次の約束期間で削減すると定められています。つまり、第1約束期間で削減できなかった分に加え、ペナルティが課せられ、30％を余分に第2約束期間（2013～18年）に削減しなければならないのです。CO_2の削減は国際的な取り決めであり、議長国でもあるわが国は、何としても目標を達成しなければなりません。

京都議定書で日本が約束した二酸化

見たい！知りたい！

地球温暖化防止活動推進員の活動レポート

山内貴史さん

山内さんは、企業で環境管理という仕事に携わるかたわら、エコマインド講座、桃太郎塾などの研修を経て推進員になられました。

昨年10月29日の『エコフェスタおかやま』では、『ピーターラビットと温暖化のお話パネル』のブースを担当し、子どもたちとフォトスタンドを作ったり、缶バッチをプレゼントしたりしました。ほかのブースとの動線やブースごとの目的を考え、スタンプラリーを提案。親子や家族で体験し、楽しんでもらえるブースとなりました。

参加した子どもたちが、家に帰って話ができるように、遊びを取り入れた企画を実施されています。「自

炭素削減目標を、国内の削減努力だけで達成することは容易ではありません。そこで、排出量の削減に加え、京※都メカニズムの活用や森林による吸収量を確保することで対応することとしています。

地球温暖化を防止するために、我が国が持つ優れた環境技術を京都メカニズムやその他の国際協力を通じて、途上国などに普及し、地球規模での温暖化対策の推進に貢献していく必要があります。

※京都メカニズム
途上国でCO_2削減事業を行ったり（クリーン開発メカニズム）、先進国間で排出枠の売買（排出権取引）や削減事業（共同実施）を行ったりして温室効果ガス削減を緩和する3つの措置。

環境と経済の両立

私は削減目標達成のために環境と経済の両立が重要であると考えています。環境ビジネスは確実に成長しており、環境に対する企業の意識も「環境配慮は経済活動を抑制する」という考えから変わりつつあります。今日では、環境への取り組みが企業の社会的な責任として認知され、環境活動そのものを積極的に事業活動の中に取り込み、社会全体で環境をよくしていこうという空気も広まりつつあるのです。また、温暖化防止のためには、消費者が再生品などを積極的に使用したり、「これはいらない」と企業へ働きかけたりといった企業と消費者間の環境コミュニケーションが欠かせません。

環境と経済は両立できます。むしろ環境はビジネスチャンスではないでしょうか。日本の省エネ・環境技術は世界に誇るべき技術であり、こうした知識や技術を世界中で活用してもらえばと思います。

次の世代へと

先日、地球温暖化ドキュメンタリー『不都合な真実』のプロモーションでアメリカ合衆国元副大統領アル・ゴア氏が来日され、お会いしました。ゴア氏は京都議定書の採択時に活躍された方で、〝温暖化は世界の問題だ。個々が声を上げ、積極的に取り組まなければ〟とおっしゃっていました。

私たちも「クールビズ」や「もったいない」など率先して取り組み、国民の皆様に呼びかけていきたいと考えておりますが、やはり一人ひとりが日々の行動を変えることが大事です。〝美しい地球を次の世代へとつなげて行かなければならない〟という意識がみんなに浸透し、環境にやさしいことがあたりまえという流れにしていくことが大切ですね。

そのゴミ ちょっと待って!!

処分する前に まず登録!!

廃棄物が資源として生まれ変わるマッチングシステム

登録無料

循環資源マッチング制度は、循環資源を提供する事業者と利用する事業者をマッチング（あっせん）することにより、循環資源を有効に活用していただくための制度です。
循環資源をごみとして処分されている方、有効利用先を探されている方、資源をお探しの方、ぜひこの機会にマッチング制度にご登録ください。

詳しい情報は、財団法人岡山県環境保全事業団ホームページをご覧ください。
http://www.kankyo.or.jp

分は、いつも今やるべきこと、できることをやるだけです」と笑顔で話す山内さん。

一昨年の『あったかハートin備前』という環境イベントでは、備前市を中心とした推進員10名で企画を作り、実施しました。備前市の「ごみ有料化」というタイムリーな話題を取り入れ、ごみ削減と同時に温暖化防止を訴え、予想を上回る来場者でにぎわいました。

4月から加わった推進員の新しい意見にも刺激を受けているとのこと。他の推進と協力し、これからも、参加者が楽しめるオリジナルの企画を考えていきたいと話してくれました。

エコフェスタおかやまで他の推進員と一緒に活躍する山内さん

子どもたちと一緒に作ってプレゼントした缶バッチ

エコスクール紹介 Vol.4

「岡山市立伊島小学校」

岡山県は、循環型社会の構築への意識啓発として、県内の小中学校20校を環境学習推進校として指定し、環境学習の推進を支援しています。

岡山市立伊島小学校では総合的な学習の時間を「わくわくタイム」と呼び、子どもたちがいつもわくわくした気持ちで学習に取り組むことを目指しています。

環境学習は、この「わくわくタイム」を中心に実施しており、5年生は「守ろう　私たちの地球環境！」をテーマに、取り組みました。

地球温暖化や、ごみ問題、大気汚染などのグループに分かれ、新聞記事を教材にしてさらに詳しく調べました。

ごみ問題のグループでは、ごみ拾いをしていくなかで、どのような場所にすればごみが捨てられないのかという課題をみつけました。「きれいな場所だと捨てないのでは」と清掃活動を行ったり、「大切にしていることが伝われば捨てないのでは」と地域でごみのポイ捨て禁止を呼びかけたり、「ごみ箱があれば捨てないのでは」と岡山市にごみ箱の設置を希望したりと様々な活動を行いました。

また、自分たちが気づいたことを多くの人に知ってほしいと、紙芝居や新聞、ポスターなどを使って低学年に知らせたり、映像を作って校内放送で流したりしたグループもありました。

冬休みにはCO_2削減チャレンジシートに取り組み、待機電力削減やマイバック運動などに挑戦しました。このほか総合学習の枠を超えて地域の美化活動に参加したり、子どもエコクラブの活動にも参加しています。

最近では、環境クラブができるなど一人ひとりの生徒の意欲が高まっています。また、環境のことを考えた生活を実践しようという意識が、子どもたちの活動により家族や地域の人へも広がりつつあります。

観音寺用水周辺を調べながらごみを拾い、分別をしました。その様子をまとめ、パソコンに記録しました。

生徒たちは調べ、学んだことをまとめて、「伝える」ための新聞や、ポスターを作りました。

ごみのポイ捨て禁止などを呼びかける生徒たち

絶滅があやぶまれる岡山県の野生動植物 レッドデータチェック！ CHECK!

ダルマガエル岡山種族（アカガエル科）

県カテゴリー　絶滅危惧種

一見、トノサマガエルに似ていますが、背面に背中線が無く、黒色の雲状斑が不規則に並んでいます。また、手足が短く、体型がずんぐりしています。

かつては、主に県南部の湿地、湿田、田溝などに広く生息していました。しかし、ほ場整備や水路改修等により、生息環境が著しく減少・分断された結果、現在では局地的な生息分布となっています。かろうじて残された生息地についても、その多くが極めて小規模であり、生息地の縮小や消失が進んでいる状態です。

また、形態や泣き声の違いから、瀬戸内海沿岸産の岡山種族と、東海近畿産の名古屋種族に大きく分けられる他、近縁種との関係・種分化の過程など、生物地理学上の解明が望まれています。

（文章・環境調査部　池本　茂豊）

PICK UP EVENT REPORT

ヨシを上手に使って児島湖の水をきれいにしよう！

岡山県環境保全事業団では、児島湖の水質改善の一助として、昨年の11月から12月にかけて、玉野市立八浜中学校の1年生を対象として、湖沼環境学習会を開催しました。

この学習は、湖沼の健全な生態系の再生を図ることを目的とした、環境省の普及啓発事業『いきづく湖沼ふれあいモデル事業』によるもので、昨年度より実施しています。 昨年度は、窒素やリンを吸収して水質浄化に効果を発揮するとされるヨシ苗を植え付けて、ヨシ原を造成することを中心に行いました。

ヨシの刈り取り

今年度は湖内に自生しているヨシを刈り取り、刈り取ったヨシを原料とし、昔ながらの伝統的ヨシ製品の製作を行うこととしました。今回は身近に利用されているヨシズと、ヨシ炭づくりを体験しました。また実験･観察『児島湖の水と生物』と題して、水質･魚類･鳥類･植物の4分野について、児島湖の沿岸に出向き、湖内の水や生物に触れながら体感する学習も行いました。

野鳥の観察

ミニヨシズの製作

わずか3日間の体験学習ではありましたが、参加した生徒達は、どの内容についても興味をもって真剣に取り組んでくれました。この体験学習が、児島湖や地域の環境について考えるきっかけとなり、次世代の環境保全活動を担う原動力として成長してくれることを願います。

エコボイス 読者の声

「読者の声」は、読者の方々と一緒につくるコーナーです。「環境」の記事についてのご意見、ご感想や環境への取り組みなどをお送りください。
stopco２@kankyo.or.jpへ！

■「地球温暖化」言葉はよく聞きますが、右から左へすっと消えていました。今回「環境」を読ませていただき、地球温暖化の仕組みも分かり、これから先の重大な被害と怖さにびっくりしました。

■家庭でできること。意識していれば簡単なことですが、一人ひとりが取り組めば大きな成果です。私もがんばります。

■今まで何気なく過ごしていた自分に気付かせてもらいました。これから意識して取り組みたいと思うようになりました。

■知らないことや気付かないことばかりなので（お恥ずかしいですが…）大変勉強になります。

編集後記

地球温暖化を描いた映画『不都合な真実』が公開されています。みなさんはもうご覧になられましたか。

この映画は、地球で起こっているさまざまな異変を伝え、問いかけています。傷ついた地球を救うため、今の私たちに何ができるのだろう？と。

ほんの小さなことでもいいのです。まずは知ることから始めてみませんか。

岡山県環境保全事業団では、『不都合な真実』を翻訳された枝廣淳子さんを迎え、2月16日に京都議定書発効記念セミナーを岡山国際交流センターで開催します。枝廣さんはこの本をわずか3週間で翻訳された方です。ぜひ、ご参加下さい。（山）

「環境」はホームページからも読むことができます。

環境 eco magazine【エコマガジン】
発行日　平成19年2月6日
発行所　財団法人岡山県環境保全事業団
〒701-0212　岡山市内尾665-1
TEL 086-298-2122（代）　FAX 086-298-2496
http://www.kankyo.or.jp
（お問い合わせ先）
stopco2@kankyo.or.jp
TEL 086-298-1225

E-C-O—M-A-G-A-Z-I-N-E—C-L-U-B

●『知ってもらう！ 来てもらう！ 楽しんでもらう！』をコンセプトに

（財）岡山県環境保全事業団では指定管理者として今春4月より、岡山県自然保護センターを管理運営することになりました。事業団では、自然環境を含む地球環境の大切さを発信する場として当センターの一層の充実を図っていくことにしております。なお、岡山県自然保護センターでは里山観察会を開催しており、これからの季節は春の七草や里山の冬鳥などが観察できます。

また、自然保護センター"友の会"の発足15周年を記念して、写真展の作品を募集しております。

詳しくは、岡山県自然保護センター（TEL. 0869-88-1190）まで。

先ずは一度、岡山県自然保護センターへ足をお運び下さい。

ヤブツバキ

●2月16日に京都議定書発効記念セミナーを開催します

2005年2月16日、京都議定書が発効し、世界の多くの国々が温室効果ガスの排出削減に取り組んでいくこととなりました。これにより、一人ひとりが地球温暖化防止へ積極的に取り組みを推進していくことが求められています。

（財）岡山県環境保全事業団では、2月16日に京都議定書発効2周年を迎えるに当たり、国内外での活動や取り組みなどの最新情報を知っていただくために、記念セミナーを下記のとおり開催します。

日時：平成19年2月16日（金）13:00～16:30
場所：岡山国際交流センター2階　国際会議場
（岡山市奉還町2—2—1）
講師：枝廣淳子　同時通訳者・環境ジャーナリスト
「地球も元気に、私たちも幸せに
～温暖化は史上最大のチャンス!～」
飯野暁　環境省廃棄物・リサイクル対策課
「京都議定書発効2年を迎えて
～目標達成の見通しと今後の課題～」

枝廣淳子

環境関係の国際会議・講演会等での通訳、出版翻訳のほか、環境ジャーナリストとして執筆および講演活動などを精力的に行っている。02年8月、日本の環境情報を英語で世界に発信するNGO団体「Japan for Sustainability」を立ち上げ、共同代表を務める。

ホームページ　http://www.es-inc.jp/

エコの達人⑥ 素敵なひと

日本の文化を大切にし人の役に立つ本当の心の豊かさへ

●プロフィール
日野進一郎さん
総社市在住。
TEL 0866-93-5762

日野さんは、建築家として雪舟生誕地妙徳寺をはじめ、公園、学校、住宅などの建築に携わっておられ、日本古来の自然と調和した建築を大切にされています。

現在、人と人、人と自然とのつながりを再生した「エコタウン・エコヴィレッジ」設立に向け準備を始めています。

また、企業や学校などで環境問題について講演したり、「グリーンデー」などの環境イベントや「マイ箸運動」に参加するなど様々な活動をしています。

日野さんは、真の豊かさを問い直し、人と人が安心して暮らせる社会を目指したいと話してくれました。

PRINTED WITH SOYINK™
R100
古紙配合率100%の再生紙を使用しています